

植野先生との5年間

吉本 真由美

植野先生には私が本学に着任したときから5年間お世話になりました。着任して間もない頃に、当時の助手2名と私を、植野先生と村上先生とでお食事に誘ってくださったことがありました。まだ右も左もわからないひよっこで緊張しきりの毎日でしたので、肩の力を抜いてお食事をご一緒する機会をくださったことを、とてもありがたく感じたのを覚えています。その後も何度か、渋谷のおしゃれなお店に連れて行ってくださり、先生の優しいお人柄に触れて、日々の仕事からほっと一息ついたり、教育・研究・校務に対して誠実に向き合っている姿に多くのことを学びました。

私が2年前に出産した後は、お食事をご一緒する機会は減ってしまいましたが、子供や私の体調を折りに触れ気遣ってくださいました。私が育休からの復帰前に一度、子供を連れて大学にご挨拶に行った際には、先生が研究室から出ていらして、子供をとっても可愛がってくださいました。先生ご自身も年齢の近いお孫さんがいらっしゃるので、優しいおじいちゃまであるお姿を垣間見たひとときでした。うちの子は先生にあやしていただいたのが嬉しく、終始はしゃいでいましたので、そんな子供の姿を見て「人見知りしない、しっかりした子だね」とほめてくださったことも嬉しい思い出です。

こう書いていますと、先生の「癒し系」の側面ばかりご紹介しているようですが、もちろん、教育・研究に関しても多くのアドバイスをいただきました。先生は文学のご専門ですが、言語学にも精通していらして、文学と言語学との関わりなど、研究の幅を広げていく様々なヒントをくださいました。先生のご期待に応えられていないことがお恥ずかしい限りですが、これからも叱咤激励してくださいましたら幸いです。これから、校務を離れられて、ご研究に一層励まれるかと存じます。どうか今後もお元気で、豊かな毎日をお過ごしください。